



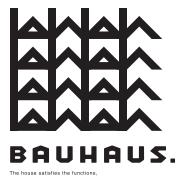
Architecture Presentasion

architect
Shinichirou Ogawa

株式会社アトリエ・キント
小川建築設計事務所

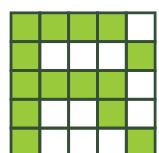


Bauhaus Project



BAUHAUS.
The new residential brand from the creators of Bauhaus.
bauhaus.com

建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者7社における2017年度、2018年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2019年8月現在

2年連続
[建築家住宅]
新築供給数 全国
No.1





担当建築家
小川 真一郎
Ogawa Shinichirou

株式会社アトリエ・キント@山口県
小川建築設計事務所

グローバルな現代だからこそ、日本人としてのアイデンティティに誇りを持ってみたいと思っています。日本人の持つ美意識や美德、そして美しい所作。私たちが暮らす環境において、その美しさを体感でき、あるいは自然に身につくような、そんな建築を目指しています。

Profile

1974年 山口県下関市生まれ

2000年 熊本大学大学院自然科学研究科建築学専攻 博士前期課程（修士）修了

2000年 工務店設計部 勤務

2013年 小川建築設計事務所 設立

2016年 株式会社 アトリエ・キントに改組

敷地面積：95.75 坪 (316.54 m²)

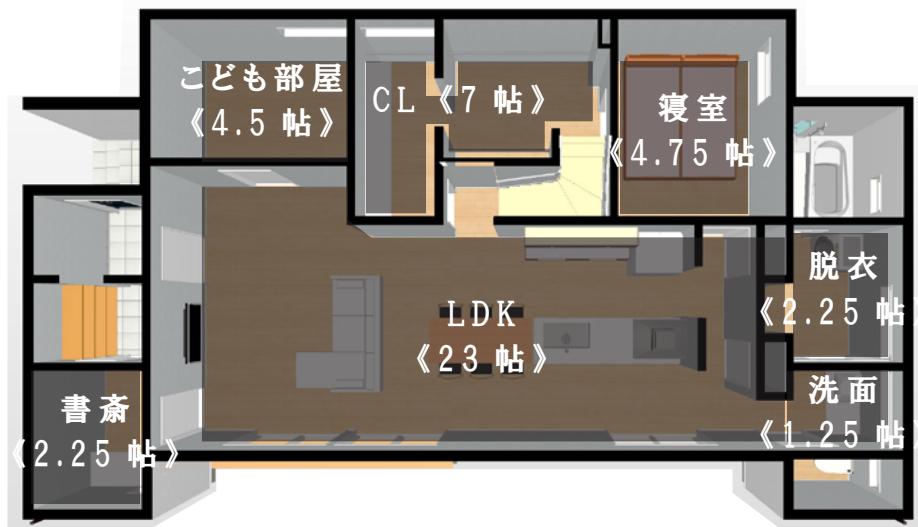
1階床面積：26.92 坪 (89.02 m²)

2階床面積：1.62 坪 (5.38 m²)

延床面積：28.54 坪 (94.40 m²)

1F

2F



影で表情が変わるシンメトリーの家

POINT①

プライバシーを守りつつ閉じすぎない「影で表情が変わる」家の顔

POINT②

家の中から季節の移り変わりを楽しめる空間設計

POINT③

大好きなモノを眺める「秘密基地」

POINT④

「ノースライト」美術館等でも採用されるクローゼットだからこそ窓配置

配置計画



道路

POINT

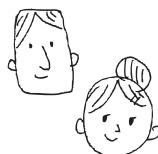
隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

- 高台を活かした室内から季節の移り変わりを楽しめる窓配置
 - プライバシーを守りつつ、閉じすぎない北側は、影の変化で表情が
変わる家の顔
 - 南側の景観を重要視し、南側は大きく開き、隣家側の北側を駐車に。



玄関

玄関から書斎（趣味部屋）までの動線



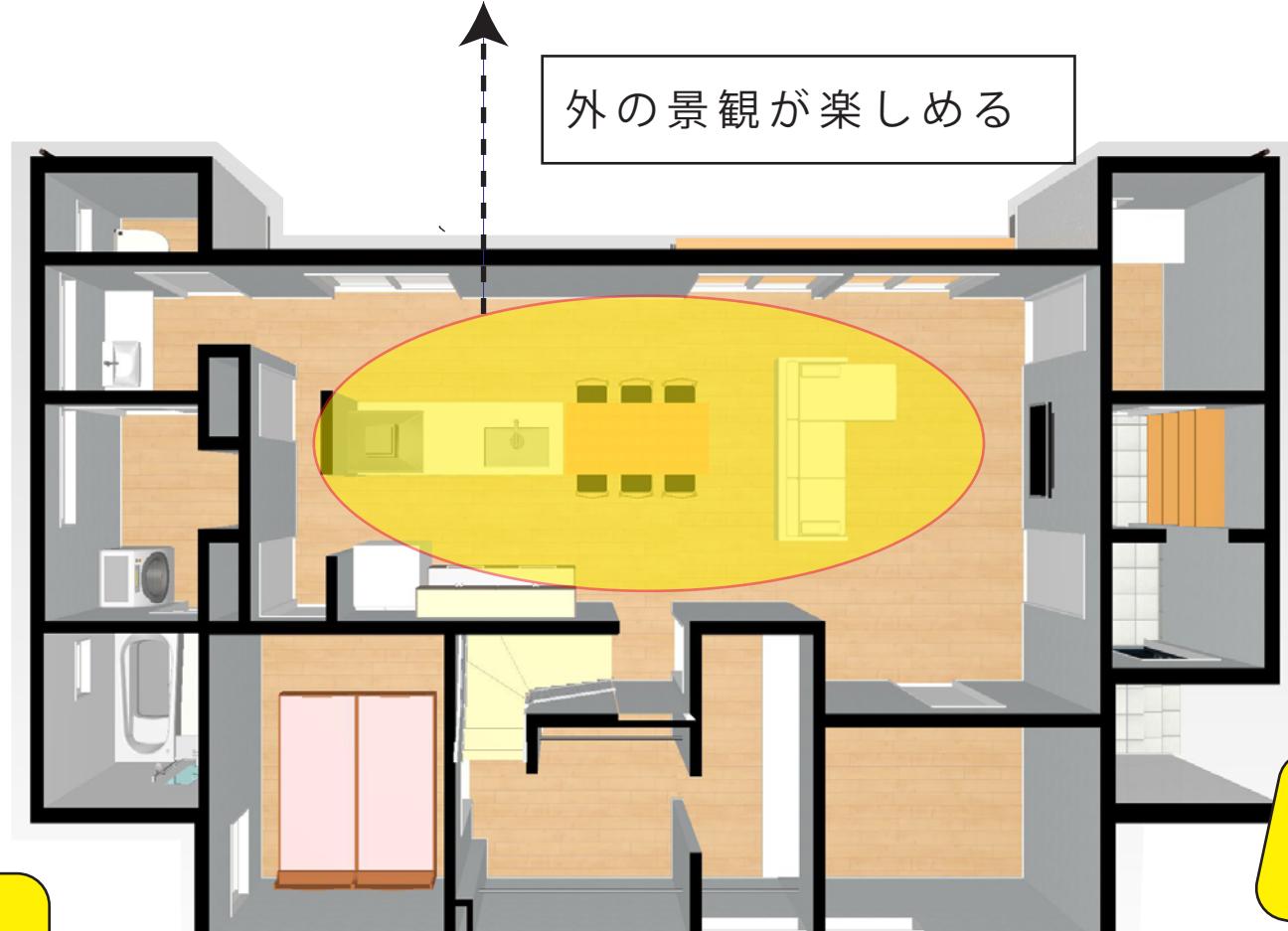
靴は40～50足くらいで多めなので、しっかり収納できるシューズクローゼットが欲しい！
 （ご主人）釣りが趣味なのでクーラーボックスや釣りのウェアとかは玄関に置いておきたいです。
 あとは趣味部屋！釣り道具を手入れしたり、針を作ったり・・・常に触っていたい！
 集中して籠れるような落ち着いた場所が欲しいです。



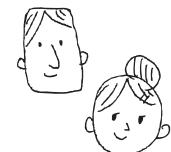
玄関は靴や、釣り道具を置いても狭くならないスペースを取っています。
 「釣り」に関することは、ご主人の生活の中でも優先度が高いので、趣味部屋兼書斎は玄関の延長線上に創りました。そうすることで釣り道具を置く「玄関」→手入れする「趣味部屋」の動線が最短になるので、手入れもしやすく、またリビング側からも出入りできるし、扉の開閉によりリビングと繋がったり、籠れたり・・・その時で使い方を変えていただけます。

**建築家POINT
要望+αの提案**





LDK



(奥様) 明かりがたくさん入る LDK が良いです！
友達を呼んで泊まつたりもしたい。

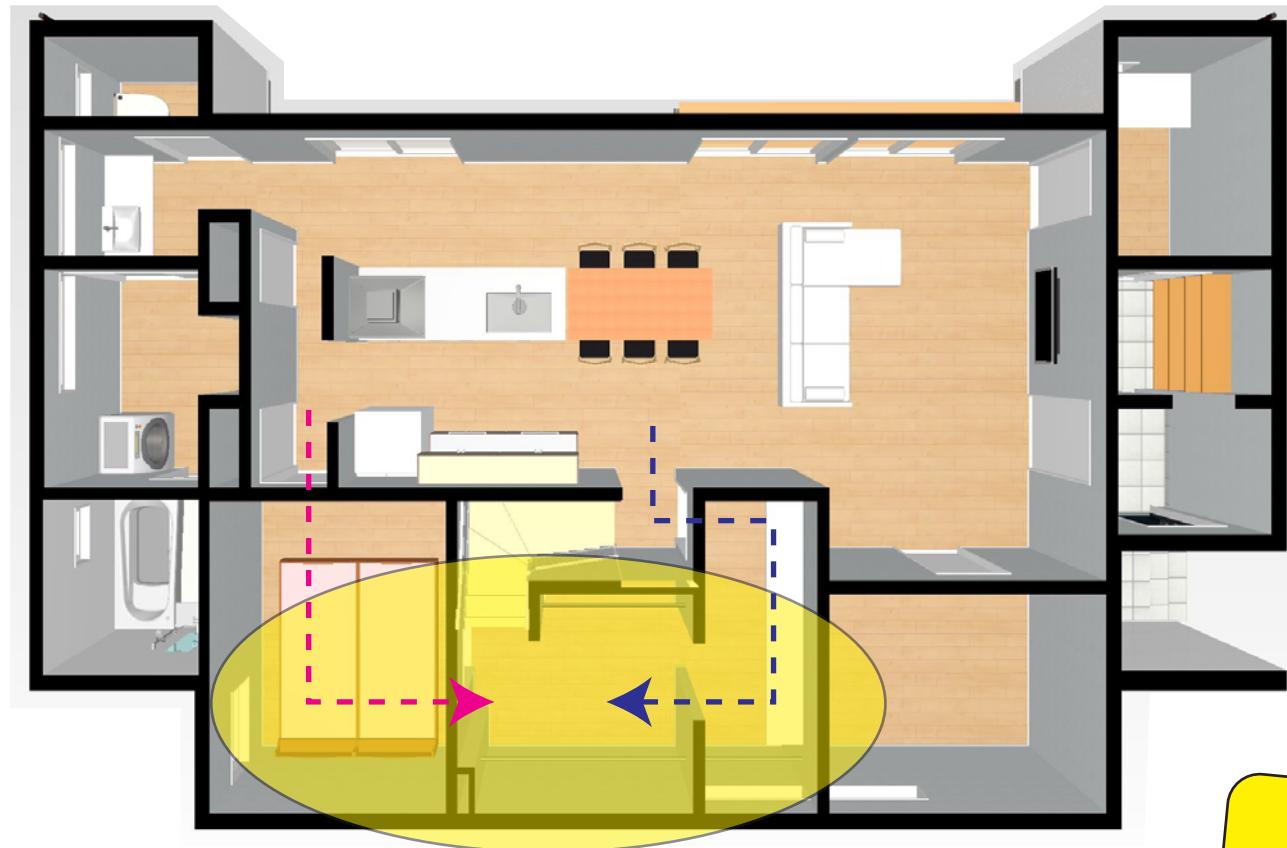
(ご主人) 釣りをした後にさばいて、みんなで食べたりとかしたいですね。今は部屋が狭いので友達を呼べるスペースがなくて・・・



南側の景観が素晴らしいので、南側を大きく開いて窓も大きくしています。南側は下の道路からも高さがあり、目線の位置が被らないので外からの視線も気にすることなく LDK で過ごせますよ。街並みや、遠くの山など、季節の移り変わりを家の中から楽しめます。

奥行のある「横の広がり」と、上部の吹き抜け「縦の広がり」で実面積より広がりを感じます。キッチンはお友達数人で料理をしながら、会話したり、食べたり・・・という自由な感じがおふたりのイメージでしたので、オープンなキッチンにしています。

建築家 POINT
「広がり」と
景色の取り入れ方



クローゼット・寝室



(奥様) 洋服が好きなので、綺麗に収納して眺めたい。

基本的には畳むよりはハンガーにかけて収納します。

寝室は寝る以外、特に何もないで、シングルベッドが2台置ければ良いです。



クローゼットは寝室側と、リビング側と両方から出入りができます。

帰宅して着替えるときはリビング側から、室内干しをした衣類を収納するときは水回りに近い寝室側からなど、その時によって使いやすい動線を使ってください。

衣類が日焼け等しないようにクローゼットは北側に配置しました。光は入るけど、直射日光は当たらないので衣類も傷みます、安定した光を取り込めます。

「ノースライト」と言って、美術館等でも採用されている手法です。

建築家 POINT
動線・光のコントロール

ふたり並べる
広さの洗面

スキンケア
スペース

室内干し
スペース

洗面・脱衣



朝の身支度の時間が同じなので、主人が洗面を使っていると私が使えなくて、すごくストレスになります。朝の支度がスムーズになるような洗面が良いです・・

洗面は脱衣と別でも良いけど、お風呂上りにすぐ化粧水つけたり髪を乾かしたりケアする場所は脱衣の近くが良いかな。



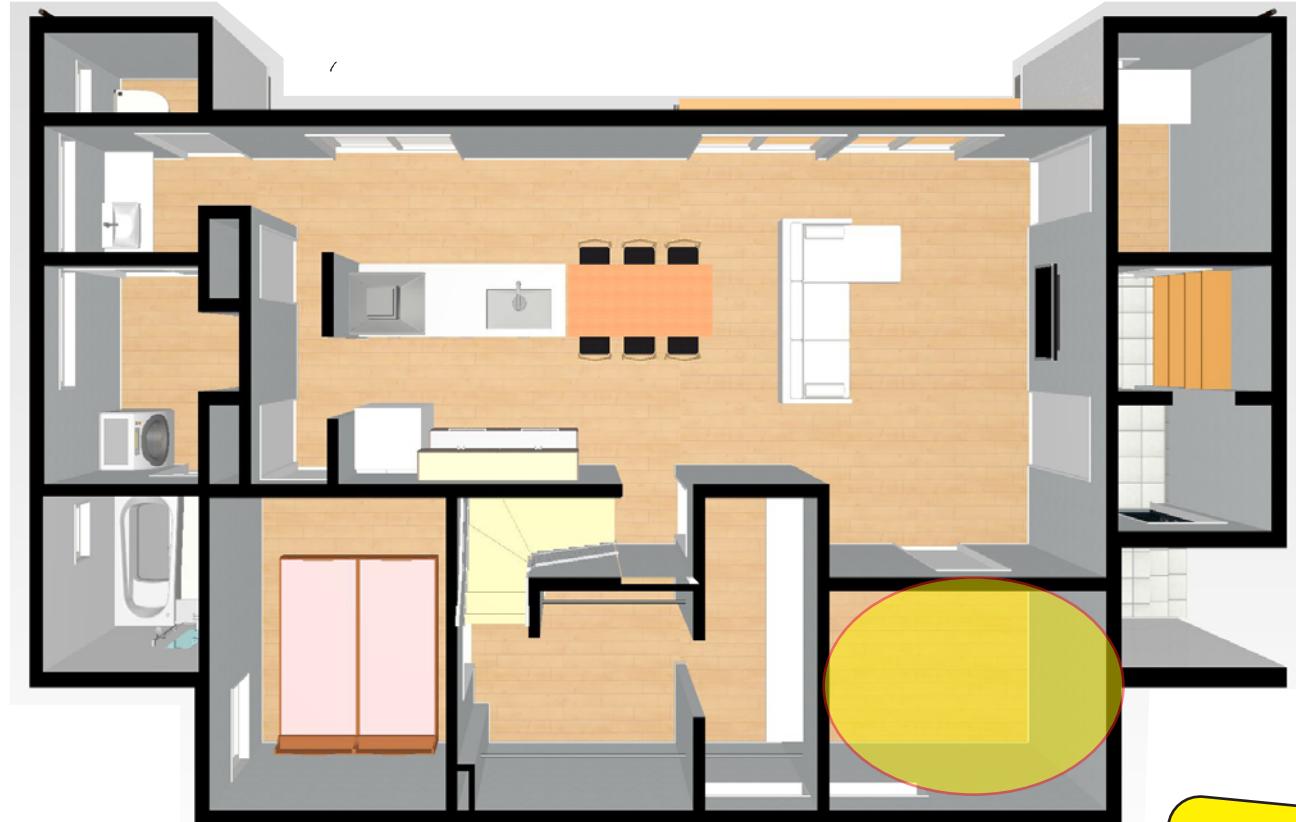
洗面を脱衣と別にするメリットは来客が洗面を使用するときにプライバシー性が高い、脱衣に入らなくても良いところや、家族間でのお風呂や洗面を同時に使うときに気を使わなくて良いところです。

洗面は予算的に1つですが、幅を広くとっているので二人並んで使っていただけます。

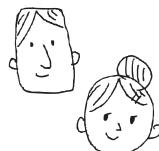
朝の準備もスムーズになると思いますよ。

室内干しもされるとのことだったので、脱衣は室内干しスペースと兼用しています。





子供部屋



子どもは将来的にはふたり欲しいかなと思ってるけど、先のことは分からぬし・・まだ、ハッキリは分からないです。



建築家 POINT 可変性のある間取り

子ども部屋としてのスペースは確保しつつ、扉をオープンにすればリビングと空間が繋がるので、リビングの一部として広く使っていただいたり、お子様が個室を必要とするまでは、奥様の趣味部屋みたいな感じで使っていただいても良いですね。あえてハッキリと分けるのではなく、曖昧な感じにしておいて、生活に合わせて使いやすい配置にしました。

南側・北側
どちらにも視線が抜ける

吹き抜け

吹き抜け

LDK 側

クローゼット 側

建築家 POINT
空間の繋がりと
景色の取り入れ方

主人が友達を呼んだときとかは、常に一緒にいる空間というより、完全に区切られてなくて良いので「別の場所」が欲しいです。
でも寝室とかではなくて、明るくて気持ちが良い場所が良いなと思っています。



奥様のプライベートスペースで、クローゼット側と、ダイニング側が吹き抜けになっているので下を見た時に好きな洋服を眺めたり、1階にいる家族の気配を感じる奥様専用空間です。
さらに南側の窓の先には、街並みや季節の変化で色が変わる山々が見えます。
開放感抜群の「秘密基地」です。

南側は高台の特性を活かした窓の配置

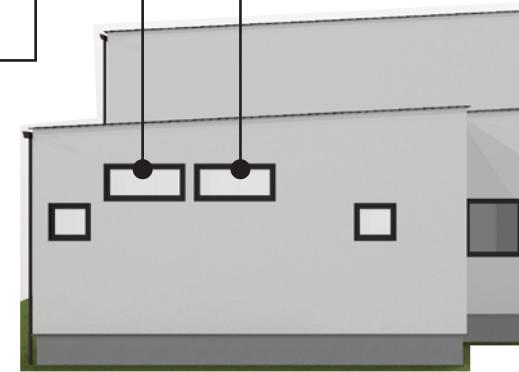
横壁をつくることで、サイドの道路や隣家からの視線は入らず
室内から、外の視線を気にすることなく南側の景色や街並みを楽しむことができる。

南



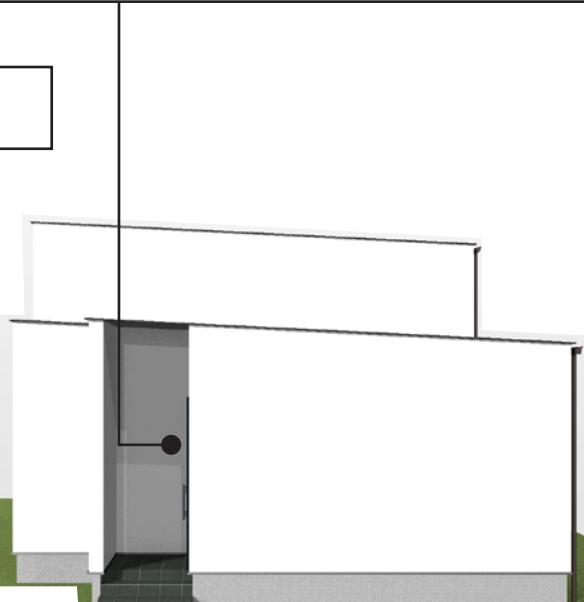
東側は隣家と視線が被らない位置ではあるが、水回りなどのプライバシー性が高い方向の為、高めの位置に窓をつけ、光は取り込むが外からの視線は入らないような窓位置。

東



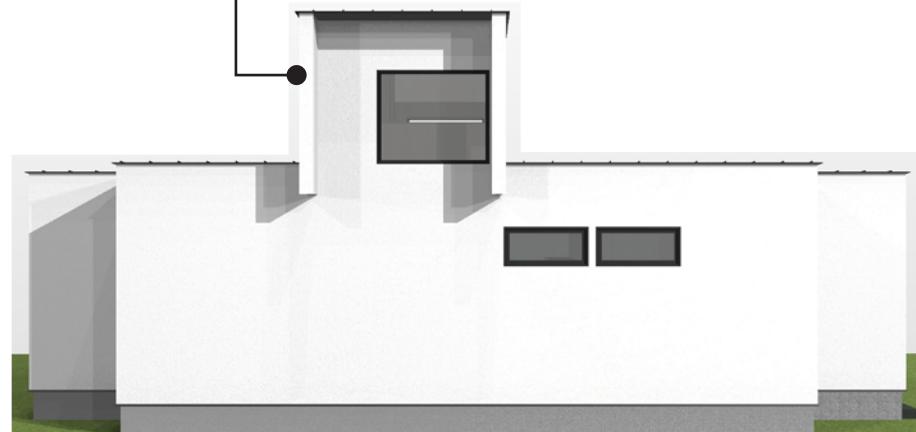
高台の為、視認性はそれほど高くないが道路側の為
道路側から室内が丸見えにならないような玄関位置

西



北側がご実家の為、あまり「閉じすぎない」設計。**お互いのプライバシー**は考慮しつつ、**閉鎖的になりすぎない**距離感を大切にした。家の顔である北側の軒や横壁は、季節によって変わる太陽の当たり方で「影」が外観の印象を美しく変えるように計算されている。

北



上益城郡風配図

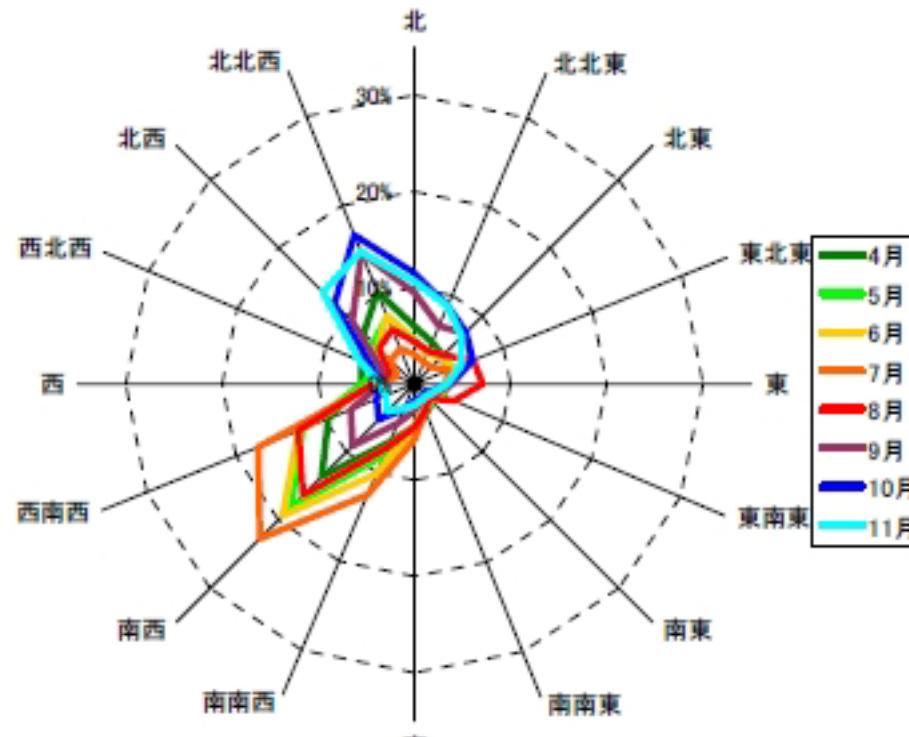


図4a 月別風配図(起居時)

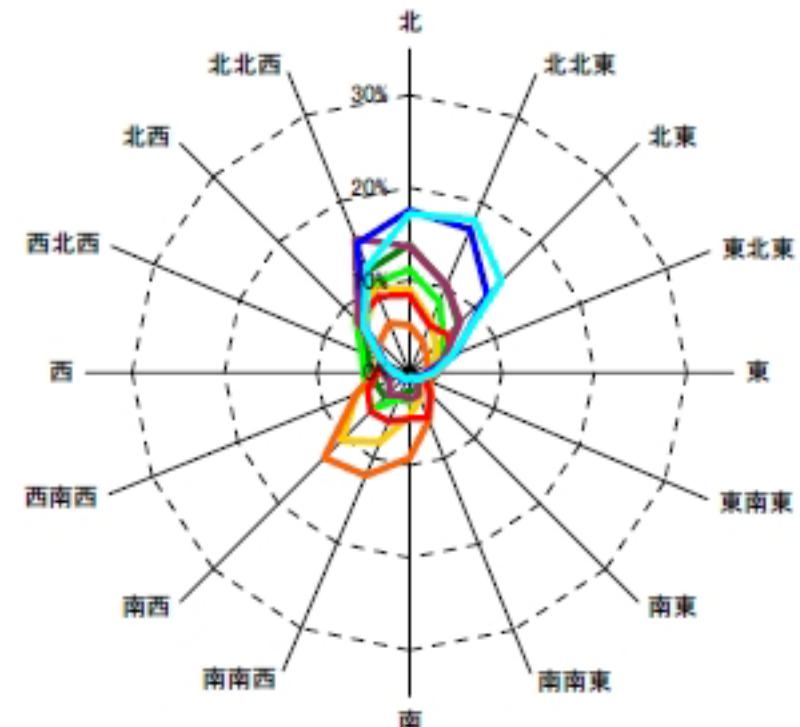
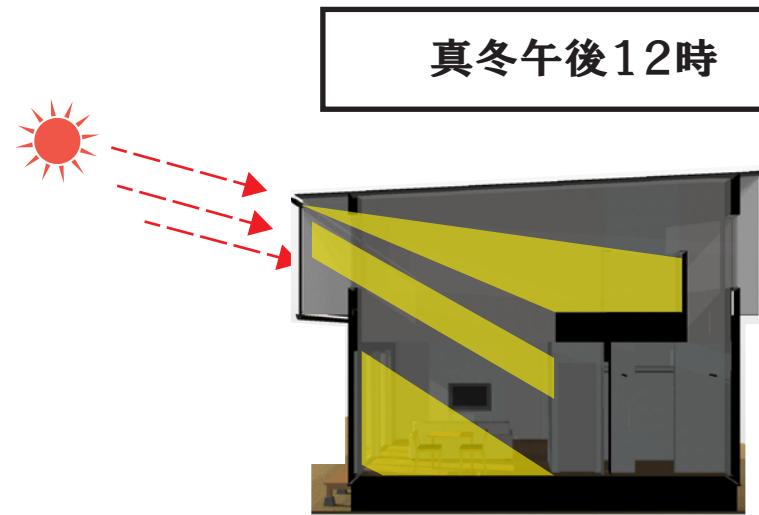


図4b 月別風配図(就寝時)

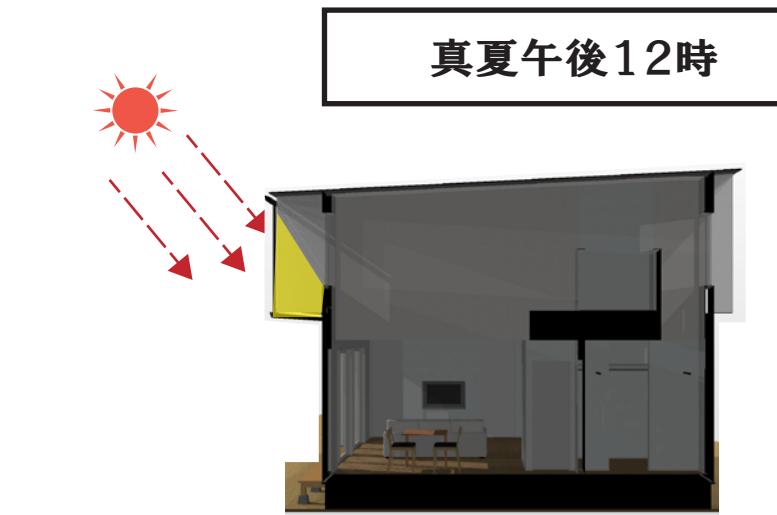
風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。